

令和2年度

事業報告書

〔 自 令和2年4月 1日
至 令和3年3月31日 〕

公益財団法人 大山健康財団

公益財団法人 大山健康財団
令和 2 年度事業報告書

〔 自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 3 1 日 〕

本財団の令和 2 年度の事業は、令和 2 年度事業計画書に基づき、下記の事業等を行った。

I. 学術研究助成事業

本財団定款第 4 条第 1 項第 1 号に規定される学術研究助成事業は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症の基礎的あるいは臨床的研究を行っている者及び感染症に関する疫学的研究を行っている個人で、満 50 歳以下の者を対象とする研究助成金で、令和 2 年度（第 47 回）学術研究助成事業は次の日程により実施した。受贈者は下記のとおりである。

なお、贈呈式は、令和 3 年 3 月 15 日（月）に霞が関・霞山会館において開催した。

- ・公募開始：令和 2 年 10 月 1 日 応募要領・申請書 195 通発送
本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同
サイト、日本感染症学会、日本寄生虫学会のホームページ
に応募要項を掲載した。
- ・公募締切：令和 2 年 11 月 30 日 応募件数：62 件
(応募内訳 細菌学分野 48、寄生虫学分野 14、その他 0)
- ・選考委員会：令和 3 年 1 月 25 日
- ・理事会決定：令和 3 年 2 月 18 日

【第 47 回学術研究助成金受贈者】（敬称略）

氏 名	所 属・役 職	研 究 課 題	助成額 (円)	選考分野
いまい たかし 今井 孝	群馬大学大学院 医学系研究科生体防御学 助教	マラリアと小胞体ストレス 応答	100万	寄生虫学
かわ べ たけし 河部 剛史	東北大学大学院 医学系研究科 准教授	新規の自然免疫型 T 細胞の機 能制御による新たな感染症治 療戦略の創出	100万	細菌学
きみづか よしふみ 君塚 善文	防衛医科大学校内科学講 座（感染症・呼吸器） 講師	病原体タンパク質ワクチンの 近赤外光を用いた増強作用に 関する研究	100万	細菌学
くるしま じゅん 久留島 潤	群馬大学大学院 医学系研究科細菌学 助教	感染組織模倣培養条件下にお ける腸球菌の抗菌薬感受性と 遺伝子水平伝播	100万	細菌学
こ が ともあき 古賀 友紹	熊本大学発生医学研究所 細胞医学分野 助教	炎症記憶細胞を追跡する新規 モデルマウスを用いた炎症メ モリーの機能解析	100万	細菌学
つかもと けんたろう 塚本 健太郎	藤田医科大学医学部 微生物学講座 講師	南米アンデス高地にみられる カリオン病の起因菌バルトネ ラ・バシリフォルミスが産生 する新規病原因子の同定	100万	細菌学

はつ た たけし 八田 岳士	北里大学医学部 准教授	テグメント発現分子を標的とする抗住血吸虫薬の探索	100万	寄生虫学
はっとり よりと 服部 頼都	国立研究開発法人国立循環器病研究センター 脳神経内科 医長	Brain-gut axis に着目した腸内細菌叢異常に伴う脳卒中発症メカニズムの解明	100万	細菌学
ひねのや あつし 日根野谷 淳	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科獣医学専攻 准教授	バングラデシュの動物における新興食中毒細菌 <i>Escherichia albertii</i> の深淫調査	100万	細菌学
みやざき しんや 宮崎 真也	長崎大学熱帯医学研究所 細胞環境構築学分野 助教	マラリア原虫ガメトサイト期トランスロコンの分子基盤の解明	100万	寄生虫学
			1,000万	

II. 顕彰事業

本財団の定款第4条第1項第2号及び大山健康財団賞・大山激励賞・竹内勤記念国際賞選考規程第2条に基づき、令和2年度顕彰事業は下記の日程で実施し、審議の結果大山健康財団賞に遠田耕平氏、大山激励賞に野崎成功真氏、竹内勤記念国際賞に野中大輔氏をそれぞれ受賞者に決定した。

なお、贈呈式は令和3年3月15日（月）に霞が関・霞山会館において開催した。

各受賞者には、それぞれ下記の賞状等を贈呈した。

- ・大山健康財団賞受賞者：賞状・記念メダル・副賞 100万円
- ・大山激励賞受賞者：賞状・副賞 50万円
- ・竹内勤記念国際賞受賞者：賞状・副賞 30万円
- ・公募開始：令和2年10月1日 推薦依頼 44通発送
本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同サイトに推薦依頼を掲載した。
- ・公募締切：令和2年11月30日
- ※推薦件数：大山健康財団賞：4件、大山激励賞：3件、竹内勤記念国際賞：1件
- ・選考委員会：令和3年1月12日
- ・理事会決定：令和3年2月18日

1. 令和2年度（第47回）大山健康財団賞受賞者（敬称略）

○遠田 耕平 とおだ こうへい 秋田赤十字病院 予防接種センター長 健診部副部長
秋田大学大学院医学系研究科公衆衛生学講座 非常勤講師
秋田大学医学部 非常勤講師
医師 医学博士 Ph.D. （満64歳）

<功労の内容>

遠田耕平氏は、1993年～1996年まで世界保健機関（WHO）の医務官としてベトナムにおいてポリオ根絶に従事されたのをはじめ、2001年～2003年にはインド、ネパール、ミャンマーにおいてもポリオ根絶に尽力された。

また、2003年～2009年にはカンボジア、2009年～2015年にはベトナムで予防接種計画に従事され、2016年～2018年にはフィリピンで定期予防接種の充実、ポリオ根絶、麻疹、風疹、新生児風疹症候群、B型肝炎、新生児破傷風、日本脳炎、細菌性髄膜炎、ジフテリア、百日咳、などのワクチン接種とサーベイランスに尽力された。

さらに、ポリオ根絶が宣言されたベトナムで、1996年までの3年間、WHO職員として取り組まれた実績が評価され、2001年、日本政府がインドにあるWHO南東アジア地域事務所へポリオ対策で派遣した初めての職員となった。

2. 令和2年度大山激励賞受賞者（敬称略）

○^{のざき いくま}野崎 威功真 国立国際医療研究センター国際医療協力局保健医療開発課
長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 客員准教授
医師 医学博士（満50歳）

<功労の内容>

野崎威功真氏は、2007年より3年間、JICA長期専門家としてHIV高蔓延国のザンビアの農村部を巡り、HIVおよび結核の治療を拡大するシステムを開発された。

こうした成果をオペレーショナル・リサーチとして取り纏められ、国際エイズ学会やWHO Bulletinなどに報告され、さらにその成果がザンビアの保健省にも認められて地方部にHIV治療を広げるための方法としてプロジェクトの手法をベースに「国家モバイルARTガイドライン」が出版された。

また、2013年よりミャンマーにおいてHIV、梅毒、肝炎、結核などの検査の質の改善や輸血の安全性向上などを通じた感染症対策の強化にも取り組んでこられた。

これら活動の成果を国際学会や国際誌に発表され、さらにその成果が国家ガイドラインやWHOガイドラインに取り込まれるなど、政策面でも大いに貢献された。

3. 令和2年度（第3回）竹内勤記念国際賞受賞者（敬称略）

○^{のなか だいすけ}野中 大輔 国立大学法人琉球大学医学部保健学科
国立大学法人琉球大学大学院保健学研究科
准教授 保健学博士（満51歳）

<功労の内容>

野中大輔氏は、2003年から2年間、JICA青年海外協力隊としてラオス・ウドムサイ県保健局寄生虫対策課に勤務され、マラリア予防のための蚊帳の適正使用、土壌伝搬性寄生虫予防のための手洗い・トイレ使用の普及のための住民に対する健康教育活動に尽力された。

帰国後、ラオスで行った参加型マラリア健康教育介入研究を論文として国際誌に発表され、また、国際寄生虫対策プロジェクトの短期専門家として、ガーナ大学野口医学研究所のカウンターパートを指導しながら、ラオスで行った研究と同様の研究をガーナでも実施され、その成果も国際誌に発表された。

故竹内勤教授の指導を受けながら完成させたこれらの論文により、学校を基盤とした参加型健康教育のアジア・アフリカにおける効果を示された。

ラオスにおける住民のマラリア受療行動の研究は、現在は標準となっているPublic-Private Mix（公的医療機関だけでなく、民間の薬局・薬店も疾病対策に活用）導入の必要性を支持するエビデンスとして世界保健機関（WHO）の戦略文書にも引用されるなど、政策策定にも多大の貢献をされている。

Ⅲ. 学術集会支援事業

本財団定款第4条第1項第3号に基づく学術集会支援助成金の募集を、例年、4月1日から4月30日の期間で行っていたが、令和2年度においては新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年8月1日から9月30日の期間に変更し、本財団のホームページに募集要項を掲載し募集を行なった結果、1件の応募があり、令和2年10月20日開催の学術集会支援審査委員会（書面表決）及び令和2年10月27日開催の理事会（書面表決）において、下記の事業に支援することを決定した。

1. 「グローバルヘルス合同大会 2020（第61回日本熱帯医学会大会）」に50万円助成した。

- ・申請者：金子 明（大阪市立大学大学院医学研究科寄生虫学 教授）
- ・主催者：一般社団法人日本熱帯医学会
- ・開催責任者：金子 明（日本熱帯医学会 大会長）
- ・開催期間：2020年11月1日～11月3日
- ・開催場所：オンライン開催（配信基地局：梅田スカイビル会議室）
- ・参加者数：約1,300名
- ・申請金額：50万円（総予算額：3,679万円）

【開催概要・成果】

日本熱帯医学会・日本国際保健医療学会・日本渡航医学会・国際臨床医学会は、グローバルヘルス合同大会2020を今年度はZoomを使用したオンライン開催とした。

基調講演8件、4学会合同イベント2件、シンポジウム22件、口頭発表37件、ポスター発表165件、ランチョンセミナー5件を実施。英語のセッションも含み、海外からも多くの参加者、登壇者を得ることができ、充実した内容をお送りすることが出来た。

ライブ配信のみならず、参加登録者向けに期間限定でオンデマンド配信し、見逃した基調講演等もご覧いただく。

【得られた効果】

今回のCOVID-19パンデミック下で行われた大会総括として、4大会長連名で「グローバルヘルス大阪宣言2020」を発表した。

- ・第61回日本熱帯医学会大会 大会長 金子 明（大阪市立大学）
- ・第35回日本国際保健医療学会学術大会 大会長 中村安秀（甲南女子大学・日本WHO協会）
- ・第24回日本渡航医学会学術集会 大会長 南谷かおり（りんくう総合医療センター）
- ・第5回国際臨床医学会学術集会 大会長 中田 研（大阪大学）

Ⅳ. 年報作成

2020年版（年報No.45）として、令和元年度（第46回）大山健康財団賞・大山激励賞・（第2回）竹内勤記念国際賞の各受賞者、令和元年度「第46回学術研究助成金」受贈者及び平成30年度（第45回）学術研究助成金受贈者の研究業績報告を掲載し作成した。（令和2年12月発行）

Ⅴ. 寄附金

国際医学研究会（慶應義塾大学医学部学生組織）の第43次派遣団に寄附金30万円を供与した。同研究会より以下の報告があった。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により人々の生活様式が一変し、本研究会の海外渡航は新型コロナウイルス感染症蔓延のため、国際医学研究会史上初めて中止となった。

そこで本年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延後における世界中の医学生生活の違いに着

目し、インターネットを用いて「国際医学生会議（International Medical Student Meeting on COVID-19）」を開催した。以下、本年度の活動目標とその具体的な活動内容を記す。

○国際医学生会議（International Medical Student Meeting on COVID-19）

1. 趣旨

我々国際医学研究会が WEB 会議を開催し、世界各国の臨床実習中の医学生を集め、新型コロナウイルス感染症によって各国がどう変化したのか、様々な文化を背景に持つ各国の医学生は新型コロナウイルス感染症を経験し何を考えたのか共有する。

2. 概要

アメリカ、イタリア、韓国、スペイン、タイ、中国、日本、ブラジルの医学生代表 1～3 人が 1 日目に 15 分～20 分のプレゼンテーション・質疑応答をし、2 日目に 1 日目のプレゼンテーションをもとに「本来の医学生のあるべき姿」などに関してディスカッションすることで国際交流を行った。

3. プレゼンテーションのテーマ

- ①新型コロナウイルス感染症によって現地の状況、医学生の生活はどう変わったか。
- ②医学生（特に高学年）は実習やボランティアなどを通して新型コロナウイルス感染症に何か貢献できたか、その貢献がどんな法律・政策・文化の背景のもと成り立っているのか。
- ③我々学生は新型コロナウイルス感染症に対し、医療人として何か協力をするべきだったのか。

4. 日時（日本時間）

1 日目：2020 年 7 月 25 日（土） 23 時

2 日目：2020 年 7 月 26 日（日） 23 時

VI. 贈呈式

令和 2 年度の学術研究助成金並びに大山健康財団賞・大山激励賞・竹内勤記念国際賞の贈呈式は、新型コロナウイルスの感染防止策（検温・手指消毒・マスク着用・ソーシャルディスタンス確保・演台へのアクリル板設置）を徹底し、出席者を限定（受賞者・理事・監事・評議員・選考委員）したうえで、令和 3 年 3 月 15 日（月）に霞山会館（霞が関コモンゲート西館 37 階）にて開催した。ただし、記念祝賀会については、新型コロナウイルス感染防止のため中止とした。

VII. 総務事項

『理事会』（令和 2 年度）

◇第 24 回理事会（書面表決）

（令和 2 年 5 月 19 日）理事総数 7 名 監事 2 名

1. 「令和元年度事業報告書（案）」の承認
2. 「令和元年度決算報告書（案）」の承認・「監事の監査報告」
3. 「第 18 回評議員会（定時評議員会）の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認

◇第 25 回理事会（書面表決）

（令和 2 年 10 月 27 日）理事総数 7 名 監事 2 名

1. 「令和 2 年度学術集会支援助成金贈呈対象学術集会及び助成金額（案）」の承認

◇第 26 回理事会（書面表決）

（令和 3 年 2 月 18 日）理事総数 7 名 監事 2 名

1. 「第 47 回学術研究助成金受贈者」の決定
2. 「第 47 回大山健康財団賞、令和 2 年度大山激励賞及び第 3 回竹内勤記念国際賞受賞者」の決定
3. 「令和 3 年度事業計画書（案）」の承認

4. 「令和3年度正味財産増減予算書（案）」の承認
5. 「基本財産より特定費用準備資金（事業推進基金）として1億500万円取崩し」の承認
6. 第19回評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の承認
7. 執行理事（神谷茂理事長、遠藤弘良専務理事、中里博常務理事）の職務執行状況報告

『評議員会』（令和2年度）

◇第18回評議員会（定時評議員会）（書面表決）

（令和2年6月4日） 評議員総数9名

1. 「令和元年度事業報告書（案）」の承認
2. 「令和元年度決算報告書（案）」の承認

◇第19回評議員会

（令和3年3月15日） 評議員総数9名 出席者：評議員：7名、理事：7名、監事：1名

1. 「令和3年度事業計画書（案）」の承認
2. 「令和3年度正味財産増減予算書（案）」の承認
3. 「基本財産より特定費用準備資金（事業推進基金）として1億500万円取崩しについて」の承認
4. 執行理事（神谷茂理事長、遠藤弘良専務理事、中里博常務理事）の職務執行状況報告

VIII. 内閣府関係

『定期提出書類等』（電子申請）

1. 事業報告等の提出

- ・ 令和元年度の事業報告書及び決算報告書の提出（電子申請による関連報告を含む）

提出：令和2年6月30日、修正：令和2年9月7日、9月14日、9月28日、10月14日
10月20日、完了：令和2年11月26日

2. 事業計画書等の提出

- ・ 令和3年度の事業計画書及び正味財産増減予算書の提出

提出：令和3年3月31日、完了：令和3年4月28日

以上

[附属明細書]

令和2年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和3年5月

公益財団法人 大山健康財団